

# JCA News

Japan Communication Association (JCA) Newsletter



日本コミュニケーション学会ニュースレター  
日本学会協議協力 学術研究団体



## Contents

# 138

## 2025.2

1. 巻頭言 .....	1	5. 事務局報告 .....	17
2. 私にとってコミュニケーション学とは .....	3	6. 広報局便り .....	20
3. 2024年度第2回理事会報告 .....	5	7. 支部ニュース .....	22
4. 学術局からのお知らせ .....	14	8. マイページ登録のお願い .....	26
ジャーナルに関するお知らせ		9. 編集後記 .....	26
大会に関するお知らせ			

日本コミュニケーション学会事務局

連絡先 <http://jca1971.com> 03-6824-9372 [jcom-post@as.bunken.co.jp](mailto:jcom-post@as.bunken.co.jp)

〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター内

## 巻頭言

### 「探究」とコミュニケーション

久保田 真弓 (関西大学名誉教授)

「はて?」。これは2024年にNHKで放映された連続テレビ小説「虎の翼」の主人公、寅子がたびたび発する言葉である。寅子は日本初の女性弁護士で、疑問が起きたとき、社会の理不尽さに直面したときに「はて?」と考え込むのである。ドラマは実話に基づくお話で、寅子が「はて?」を繰り返しながら果敢に法曹界の道なき道を切り開いていく様子が描かれている。



一方、学校教育では学習指導要領の改訂により2020年から小・中・高等学校で順次「探究的な学習」が明確に打ち出された。これには「主体的・対話的で深い学び」(アクティブラーニング)の視点による授業改善も目指されている。また文部科学省の「GIGAスクール構想」に基づいた施策により、一人1台の端末が配布され、その普及に伴い探究学習での利用も増加している。探究学習は、社会的な課題追及や批判的思考力育成にとって大事な活動であるが、適確に指導しないと単なる端末を使った調べ学習になりかねない。現職教員の話を聞くと何を探求するか、何に疑問を持つのか、どんなテーマで探求をするのかというはじめの一步がなかなか難しいという。

アメリカの哲学者であり教育学者であるジョン・デューイによると探究とは、「『不確定な状況(indeterminate situation)』をその構成要素が統一された全体とみなされるような『確定的な状況(determinate situation)』へと変容する過程」のことである(早川, 1994, p.38)。つまり、デューイは「探究」を「状況」との関係で論じており、ここで言う「不確定な状況」とは「かき乱されて困った、曖昧あるいは混乱した、真直に、明確に秩序付けることのできない状況」をさしている。私は、大学で教えていたゼミナールの学生をスタディツアーと称してフィリピンやバングラデシュに毎年連れて行っていた。そこでの異文化体験は、デューイのいう「探究」すなわち「反省的思考」をすることで有意義な「経験」

となる。この経験の意味を絶えず豊かにしていくことがデューイの考える成長であり、教育は、生涯にわたり人の成長を促すことをさす。そしてこのデューイの探究の過程には、「前反省的状況」とよばれる段階があり、探究によって変容される「不確定な状況」をさし、それは直感的に「疑惑(doubt)」として浮かび上がる状況で、それが「探究」の開始につながる(早川, 1994)。ところが、この「直観」的に響くもの、状況全体のなかで目立つものを識別できる能力がないと「探究」学習は始まらないだけでなく、本来の目標を見失うのではないだろうか。

私が危惧するのは、デジタル社会にあってこの直観力が衰退しているのではないかという点である。電車の中は言うに及ばず自転車をこぎながらでもスマホから目を離さず、周りの状況から自分を遮断している人々がなんと多いことか。確かに、スマホで映画や本など多種多様な情報に接し、感極まる機会も多元的に増えたことと思う。しかし、常に変化する人と対峙して、またその常に変化する状況のただなかにおいて {?} と立ち止まるような「情感」、「はて？」と意識的に疑問が浮かぶ前の、その根底にある「情感」は揺さぶられているのだろうか。8割は視覚で情報を得る人間が、6インチばかりの画面だけにくぎづけになっていてよいのだろうか。「はて？」私の自問自答(コミュニケーション)は今日も続く。

### 引用文献

久保田真弓(2012)「第5章『『経験』と『コミュニケーション』の関係」久保田賢一・岸磨貴子編著『大学教育をデザインする—構成主義に基づいた教育実践—』晃洋書房, pp.115-133.

久保田真弓(2024)「『豊か』であるはずの『コミュニケーション』」『情報研究』Vol.59, p.3-15.

早川操 (1994)『デューイの探究教育哲学—相互成長をめざす人間形成論再考—』名古屋大学出版会

## 私にとってコミュニケーション学とは

菅野 遼 (昭和女子大学)

2024年の生誕祭直前、私の恩師であるカーリン・K・キャンベル教授がご逝去された。周知の通り、キャンベル教授は米国のレトリック批評を長年牽引した大御所であるが、特に1970～80年代のフェミニスト・レトリック理論の礎を築いた先駆的研究者であり、大統領演説のジャンル批評という分野においては比類なき第一人者でもあった。頻繁に星座 (constellation) という比喩を援用しながらコミュニケーションを熱く語り、力なき者へのエンパワーメントを片時も忘れなかった彼女の訃報に接した際は、私もまさに「巨星墜つ」という心境であった。あれほど白く輝いた巨大な星の灯が、いまや歴史という広大な別宇宙へと旅立ってしまったかのようである。

端的に言えば、幽霊のような存在と関わり合うとは一体どのような出来事なのか。私にとってのコミュニケーション学を語る上で、今触れるべき問題系はこれをおいて他にない。私と彼女の奇遇な縁には不思議な魅力があるが、おそらくそれは「届かなかった手紙」<sup>デッドレター</sup>のような経験を伴う歴史の深部にこそ宿っている。しかし、「存在 (成立) するはずだった何か」をつねに夢見ていたのは、当のキャンベル教授自身であったに違いない。事実、彼女が1990年に出版したキャサリン・H・ジェイミソンとの共著書 *Deeds Done in Words: Presidential Rhetoric and the Genres of Governance* は、まさにそのような潜在的領域に滞留する存在に対して手向けられた書物だった。米国大統領の演説を歴史的にまとめたこの集大成的著作には、次の献辞が残されている。

大統領になっているはずだった女性たち

大統領になろうと試みた女性たち

いつか大統領になるであろう女性たちに向けて



逝去の数週間前、待望し続けていた米国史上初の女性大統領が誕生しなかったという現実、彼女にとって受け入れ難いものだったかもしれない。だが、インクの染みとして紙面に残り続ける上記の献辞は、彼女の生の範疇を超え、「存在するはずだった何か」の居場所をこれからも保証し続けていくだろう。現実主義的でクールに振る舞い続けた厳格な彼女も、他方ではヒトとモノとの狭間で生き永らえるこの歴史的残余にこそ、未来の希望を託していた。まるでそれは、誕生を約束された存在こそが彼女の種火自体であったかのようなのである。奇しくも発話行為論の核心を示す"Deeds Done in Words"というフレーズの反響が、来るべき複数の他者が佇む<sup>マルチバース</sup>多元的宇宙を切り拓いていく。そして、あるひとつの出来事が生じた際に不可避に心に宿る「生まれなかった別の何か」という表現し尽くせない感覚を、この類の発話行為は呼び覚ます。「他でもありえた」という微かな可能性を木霊として聞き取ってしまう聴衆は、その発話行為に触発され、事後的に構成されるからである。

Speech というよりも Delivery という語に対応する「演説」は、この誕生の複数性という存在論的次元に関わっている。私の「コミュニケーション学」に対する現在の考え方も、様々な恩師の方々との交流から派生的に産み落とされたものである。キャンベル教授は間違いなく私に強い影響を与えた一人であるが、彼女の講義に参加する機会を与えてくれた先生方や、日本や米国での大学院生たちとの交流、日々見聞きして感じたもの、そんな様々な要素の組み合わせから私の「コミュニケーション学」は形成されている。無意識に芽吹いたその思考は、「新しい唯物論」と呼ばれる思想的潮流とも呼応しながら、今でも変化し続けている。

今はただ、キャンベル教授の永遠の安寧を祈り続けるのみである。彼女が、愛する夫や家族、あの無頼な冒険者と慎重な隠匿者であった愛猫の黒猫二匹と共に、安らかに眠ることができますように。願わくは、いつか米国初の女性大統領が誕生した際に、ぜひ彼女の墓前までご報告に訪れたい。凶らずも最後の直弟子となってしまった私としては、彼女に分け与えられた灯火を絶やさぬよう、そんな浮世の夢を抱きながら日々を歩いていくほかない。

## 2024年度 第2回理事会報告

日時：2024年10月14日(月) 13:00～

会場：オンラインでの開催

参加者(敬称略)：20名

守崎、小山、松島、宮脇、小西、日高、内藤、松本、高井、田島、谷口、清宮、五十嵐、谷島、石黒、佐々木、柿田、横溝、宮曾根、清宮

欠席者(敬称略)：宮崎、高永、毛利

議長：守崎(会長)

司会：五十嵐(事務局長)

書記：宮脇(副事務局長)

### 会長挨拶

三連休最終日、お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。どうぞよろしくお願いいたします。

### 審議事項

#### 【1】第54回(2025年度)年次大会関連

日程：6/7、8を候補日に準備を進めている

会場：広島修道大学

中国・四国支部は人数が少ないので学術局メンバーも準備をサポート予定

テーマ：戦争と平和

シンポジウム、想定の形で進めるのが難しくなった

ノーベル平和賞を受けて、今、広島でウクライナを語ることは違うのでは

→学術的に、コミュニケーション学として、ノーベル平和賞受賞をどう理解するか

2名の新候補を選出

補足：以前「政治とコミュニケーション」というテーマで岩崎先生に政治の記憶についてご講演いただいたが、内容が被ることはない

今後の進め方：会長・学術局に一任し進めていく

#### 【2】各局

##### 1. 事務局

##### (1) 業務内容の確認

理事会全体の業務内容を整理し、委託先を検討したい

→各部局に業務内容、委託を希望するかどうかを取りまとめたスプレッドシートを作成

## (2) 委託先変更の検討

現在国際文献社に委託中、業務内容に問題があるわけではないが、もう少し安いところがあるのであれば委託先変更を検討したい

→情報収集中

現在1社には話を聞いた。今後相見積を行う

## (3) 2024年度年次大会決算

施設利用費等の支出が多く、185,855円の赤字となった。年次大会運営を業務委託していた頃よりは赤字が抑えられた。

## (4) シニア会員新設

新設するかどうか→制度は設ける

会則改定は総会での承認が必要、次回総会での承認を目指して進めていく

### シニア会員新設原案

#### 資格

1. JCA 正会員として〇年以上などの規定を設けるか  
→会員数の減少を少しでも食い止める、経験豊富な研究者と若手研究者の交流を増やす、という設置目的を考えると、なるべく間口を広くしておく必要があるため、会員歴は特に求めない
2. 65歳以上とし、「定年退職後、専任教員として再就職している場合は除く（非常勤の場合は可）」という項を加える
3. 年会費は正会員の半額（5000円）とする
4. 会員としての権利  
正会員と同様（学会発表、ジャーナルへの投稿、年次大会参加費割引）

#### 会則改定案

#### 第6条

(6)シニア会員 満65歳以上で、コミュニケーションの研究、教育、実践に従事する者および関心のある者 シニア会員の資格については内規に定める

#### その他の意見

- ・ 「非常勤は可」という条件についてはいろいろなケースが予想される。専任教員のみとした方が混乱がないのでは。
- ・ 専任教員としての経験がない応募者がいた場合の対応も考える必要がある。
- ・ 応募なのか、推薦なのか、記述する必要があるのでは。（学生会員のケースと対応させる。学生会員の場合、6月までに申請がなければ一般会員、毎年学生証を国際文献社に提出）
- ・ 年齢のみの規定の方がわかりやすい、「定年」などの文言がない方がよい（一般企業など制度が違う場合も）のでは。

### (5) 名誉会員の推薦

会則第7条によると名誉会員は理事会の推薦に基づき承認されるが、これまでは名誉会員なし。今後は推薦の機会を別途設ける。

その他の意見

- ・ 近年自動退会（除名）になってしまった方について情報提供があった。
- ・ ご健在の先生を推薦しても良いのでは。

### (6) 複数支部の登録

会則改定の必要がある。また国際文献社に確認したところ、マイページ改修費用、全会員の支部追加作業を依頼する場合、作業費が発生する。その他の金額は仕様によって大きく変わるので現時点で概算はできない。

その他の意見

- ・ いくつまで登録できるようにするのかを明確にする必要があるとの指摘がされた。
- ・ 九州支部紀要の条件に九州支部所属とあるので、とりえず九州支部を入れる会員が増える可能性があるとの指摘がされた。
- ・ 全部の支部を選択する会員がいる可能性があり、そのデメリットとして支部会の定足数に影響があるとの指摘があった。

## 2. 学術局

### (1) 第53巻第2号について

研究論文については、査読後修正中であった2本のうち1本が掲載可となった。もう1本については、修正原稿の確認中であり、十分な修正がなされていると判断されれば掲載の予定である。第53回年次大会関連としては、基調講演およびシンポジウムの論考が3本、特別企画として大会のビブリオバトル関連の内容（関西支部から5名）が掲載予定である。

## 報告事項

### 【1】各局

#### 1. 事務局

##### (1) 入退会者報告

正会員 271名

学生会員 11名

準会員 2名

計 284名

##### (2) 除名候補者（会費3年滞納）

#### 2. 学術局

##### (1) ジャーナル関係

###### i. ジャーナル運営委員の増員について

8月より新たに小川直人先生と今井達也先生に加わっていただいた。これまでの大橋理枝先生と合せ、ジャーナル運営委員は3名となった。



### ii. 第53巻第1号について

7月末に予定通り発行された。

### iii. 第53巻第2号の進捗状況について

- 2025年1月発行予定の第53巻第2号については、研究論文1本（修正確認中の論文が十分な修正がなされていると判断されればもう1本）、第53回年次大会の基調講演およびシンポジウムの論者が3本、特別企画として大会のビブリオバトル関連の内容が掲載予定である。
- 国際文献社への入稿は、10月末を予定している。

### iv. 第54巻第1号への投稿について

- 2025年7月発行予定の第54巻第1号には、再投稿論文1本、新規投稿論文4本の提出があった。
- 再投稿論文は再査読依頼、新規投稿論文は、10月中に査読者を選定し、査読のプロセスを進めていく。

## (2) 年次大会関連

日程：2025年6月7日（土）8日（日）

場所：広島修道大学

テーマ：コミュニケーションの戦争と平和（仮）→変更予定

2025年2月1日募集締め切り

広島支部人手が足りないので協力をお願いしたいとの依頼があった。

地元の祭りが開催予定だが、宿泊施設には影響はおそらくなく、広島駅周辺にも新設宿泊施設があるとの情報提供がされた。

開催校パネル、地域にもPRなどの準備を進めている。

現在の運営委員5名の紹介

## 3. 広報局

### (1) 活動報告

#### i. JCA ウェブサイト

同ウェブサイトにて、ニュース16件、教員公募10件を掲載、役員名簿を更新した。

内容	件数	割合
教員公募	7	44%
支部活動	4	25%
ジャーナル	1	6%
学会挨拶	2	12%
外部情報	2	12%
合計	16	

## ii. メーリングリスト

メーリングリストにて、18件の配信を行った。

内容	件数	割合
教員公募	9	50%
支部活動	4	22%
ジャーナル	1	5%
学会挨拶	1	5%
外部情報	3	16%
合計	16	

HPの文面、メーリングリストの文面は依頼者をご執筆くださいとのお願いがあった。

### (2) HPやニュースレターの掲載内容について

- HPのニュースに人事情報を掲載することでの、学術情報の後景化、および人事情報の期限後の掲載によるデータ量の問題
- 各種媒体での出版情報（書籍・ジャーナル内容）の公開
- 総会情報の公的場所での公開の是非
- ニュースレターに掲載する情報の内容の検討について
  - 書評はジャーナルに移管することが決定済み
  - ニュースレターは巻頭言、わたしとコミュニケーション学、各局情報、支部活動情報などを掲載している

### (3) 技術的問題

- 支部HPがGoogle検索にかからない：2022年時点で問題は認識、24年10月に中部支部から問い合わせがあった。九州支部のページや紀要がgoogleでキーワード検索してもヒットしない
  - Google Search Consoleへの登録
  - ドメイン自体の問題の可能性もある
  - 業務委託した会社は、支部引越し作業のみを請け負い、ページ作成・修正は請け負っていない
- メーリングリストのメール未配信

前広報局体制でも問題は認識していたが、現時点で対応できていない。現状、会員及び支部のメーリングリストは国際文献社のもの、理事や各局（実際の運用は学術局のみと思われる）はロリポップ社のもの。理事のメーリングリストに新理事を登録した際に、一定時間の後名簿から削除されることが起こった。さらに、学術局のメーリングリストにて、新規登録された方にメールが未配信となっている。

理事の作業負担が大きすぎるので、事務作業はすべて一括でアウトソースできるように進めるべきとの意見が出た。それに対し、費用の面で委託が難しかった経緯があったりIT系の業務をやらない会社もあつたりするので、そこも含めて検討するべきとの意見が出された。

ニュースには学術系、教員公募は教員公募のカテゴリーのみに掲載にすることも現行システムで可能。会員にのみ開かれた情報提供の方法も模索するべきかもしれないとの意見が出た。

## 【2】各担当理事

JUCAでの配布物などがあれば高井先生に共有

**【3】各支部報告****(1) 北海道**

9月に支部研究会、NLに報告、スタッフの学部生を研究活動に巻き込むことの重要性を再認識

**(2) 東北**

12月14日(土) オンラインで研究大会開催予定、一般参加もあり

**(3) 関東**

11月16日(土) 二松学舎大学で研究会「コミュニケーション学とヘイトスピーチ」  
立教大学 酒井 信一郎先生、谷島 貫太先生 Megu Itoh 先生 青沼 智先生 ご発表予定

**(4) 中部**

報告事項なし

**(5) 関西**

11月23日(土) コミュニケーション研究から見たアメリカ大統領選挙テレビ討論会 田島先生ご講演

**(6) 中国・四国**

来年度大会以外の報告はなし

**(7) 九州**

11月30日(土) 支部大会 鹿児島大学ハイブリッド開催「AI時代のコミュニケーション」

鹿児島大学伊藤奈賀子先生基調講演、発表募集中

昨年度30周年 特別セッション「コミュニケーション学は持続可能か」過去の支部長 池田先生、吉武先生、清宮先生を中心に意見交換

九州支部ニュースレター合併号として発行、運営委員の研究報告

九州支部オンラインジャーナル発行

**【4】各支部報告****(1) その他**

1. 会長は現在任期1年目のため、来年に選挙で次期会長を選出予定
2. 2026年次大会候補 九州もしくは関西、集客率の高い関東
3. 学会宛に献本『改訂版異文化理解入門』『ポライトネス理論』希望者は事務局長まで
4. 会員からの問い合わせ：ビジネスコミュニケーションに関する勉強会や指導者を探している→清宮先生が連絡を取る

**【5】次回理事会開催日時・会場**

2025年3月(主な審議内容：学術局が準備した年次大会プログラム、予算案)

## 【2】各局

### 1. 事務局

#### (1) 入退会者報告

高永副会長より、現在の会員数について、総会員数 279（一般会員 263、学生会員 13、準会員 2、賛助会員 1）との報告があった。

### 2. 学術局

#### (1) ジャーナル関係

—第 53 巻第 1 号の状況について

内藤副学術局長より、前回理事会の承認および報告時には、4 本が掲載に向けて進行していたが、その後 2 本については修正が進んでいないとの報告があった。1 本は取り下げたうえで改めて投稿を検討中であり、もう 1 本は第 3 査読中である。したがって、3 本が掲載予定とのことであった。7 月末発行に向けて準備中であり、5 月 20 日頃、国際文献社に入稿予定である。

—第 53 巻第 2 号の状況について

内藤副学術局長より、新規投稿は 9 本であったとの報告がされた。前号からの修正中 1 本と新規投稿をあわせ、合計 10 本が現在査読中である。

—第 54 巻第 1 号について

内藤副学術局長より、ホームページと会員へのメールにより原稿募集中との報告があった。締め切りは 9 月末であり、現在のところ投稿はまだない。

#### (2) 次回年次大会のテーマについて

小西学術局長より、今回議題として提示できなかったが、新体制のもとで次回年次大会のテーマを早めにご検討いただいたほうがよいとの説明があった。守崎会長から、日程・場所ともにまだ正式に決まっていないが、広島（中四国支部）での開催を検討しているとの報告があった。

### 3. 広報局

#### (1) ニュースレター136号の発行とニュースレター137号の予定

松本広報局長より、ニュースレター136号（2024年5月号）が発行されたことと、次号となる137号は2024年11月に発行予定となっていることが報告された。

#### (2) HPへの掲載情報

松本広報局長より、以下の情報が学会HP【ニュース】に掲載されたことが報告された（前回理事会～2023年5月15日、4件）。

- ・ 2024年05月10日【ニュース】JCA第53回年次大会（2024年6月1日(土)・2日(日)）プログラム&プロシーディングス
- ・ 2024年05月07日【ニュース】『日本コミュニケーション研究』第54巻第1号論文募集のお知らせ
- ・ 2024年04月16日【ニュース】電気通信普及財団 2024年度上半期助成・援助公募情報のお知らせ
- ・ 2024年04月03日【ニュース】Peatixにて、日本コミュニケーション学会第53回年次大会の申し込みを開始いたします

### (3) ML/X での情報発信について

松本広報局長より、HP 掲載情報のうち、会員向けに共有すべきものに関しては ML にて配信をおこなっているとの報告があった（前回理事会以後 9 件）。また、HP 掲載情報、およびそれ以外の情報（会員の新刊情報等）を含め、学会公式 X をつうじて発信をおこなっているとのことであった（前回理事会以後 1 件）。

### (4) 第 53 回年次大会における出版社展示ブースについて

松本広報局長より、昨年度出展のあった 2 社（春風社と九夏社）に連絡をしているとの報告がされた。現時点で返事をもらえていないとのことであった。

### (5) 理事会 ML に関する問題について

松本広報局長より、理事会 ML に不具合が生じていることが報告された。ML を管理している京都グラフィッシュ社に問い合わせたが原因は不明であり、今後も問題が継続するようなら、何らかの対応が必要と考えられるとのことであった。

## [3] 各担当理事

高井理事より、JUCA での発表件数が減少していることが報告された。NCA で発表する絶好の機会なので、JCA のみなさまにもぜひ申し込みをご検討いただきたいとのことであった。

## [4] 各支部報告

### 1. 北海道

佐々木新支部長より、新体制のもとでの支部運営に移行しつつあるとの報告があった。

### 2. 東北

宮曾根新支部長より、支部をあげて年次大会の準備を進めているとの報告があった。また、若い学会員を増やすにはどうしたらよいか、知恵を絞っているとのことであった。

### 3. 関東

田島支部長より、3 月 30 日（土）に関東支部研究会を行ったとの報告があった。支部研究会の内容を年次大会につなげるために、次回は 11 月までに開催したいと考えているとのことであった。

### 4. 中部

毛利支部長より、今年度も 9 月と 3 月に支部大会を開催予定との報告があった。若い会員を増やす試みとして、支部の歴史をたどって開示することを検討しているとのことであった。

### 5. 関西

日高新支部長より、3 月 10 日（日）に支部大会をオンライン開催したとの報告があった。「機械翻訳と生成 AI—未来を創るテクノロジー」というタイトルで、古谷祐一氏（株式会社ロゼッタ取締役、アジア太平洋機械翻訳協会監事）にご講演いただいたとのことであった。

## 6. 中国・四国

谷口支部長より、支部会員が限られており、今後の支部のあり方について検討していきたいとの報告があった。

## 7. 九州

清宮支部長より、運営体制に変わりはないことが報告された。今年度の支部大会は11月30日（土）に鹿児島大学で開催予定（テーマ未定）とのことであった。

## 【5】 その他

守崎会長より、所属先の変更等で、居住地（勤務校）と所属支部とのあいだに距離ができてしまうことがあるが、複数の支部で活動できるように対応を考えたいとのお話があった。

## 【6】 次回理事会開催日時・会場

総会で新体制が承認されたのちに改めて調整することとなった。

以上



## 学術局からのお知らせ

### ジャーナルに関するお知らせ

2025年1月に『日本コミュニケーション研究』(Japanese Journal of Communication Studies)第53巻第2号が発行されました。現在は、第54巻第1号(2025年7月発行予定)の準備が進められています。また、**第54巻第2号(2026年1月発行予定)の原稿を募集**しております。締め切りは、**2025年3月31日(月)**となっております。変更等が生じた際にはホームページに掲載いたしますので、最新情報をご確認のうえご投稿いただきますようお願い申し上げます。

ご投稿の際には、ホームページにある最新の「研究論文集投稿規程」「学会誌執筆要項」をご参照いただき、投稿資格や研究倫理、書式等をご確認のうえ、ご投稿いただけますようお願い申し上げます。ご提出は、ワード等で作成された(1)「論文」、(2)「シノプシス」、(3)「著者情報およびファイル作成に使用した機種等の情報」の3つのファイルをメールに添付して、指定メールアドレスに送付するという形でお願いいたします。また、原稿を送付される際には、ジャーナル専用アドレスに加え、編集委員会のメールアドレスにも「CC:」で送付をお願いいたします。メールアドレスは以下の通りです。

To: journal[@を入れる]caj1971.com

CC: ohashiri[@を入れる]ouj.ac.jp

上述したメール投稿で受領の返信がない等の不具合、また、ジャーナル投稿に関するその他のお問い合わせは、編集委員会の大橋(ohashiri[@を入れる]ouj.ac.jp)までご連絡ください。可能な限り迅速に対応致します。

皆様のご投稿を心よりお待ちしております。

(副学術局長：ジャーナル担当 内藤 伊都子)

## 大会に関するお知らせ

すでにメーリングリストやホームページにご案内していますように、2025年6月7日、8日の両日、広島修道大学にてJCA第54回年次大会を開催いたします。大会のテーマは「忘却に抗うコミュニケーション」です。

### ○ 大会シンポジウムおよび基調講演

昨年10月、日本被団協がノーベル平和賞を受賞しました。その会見場では、日本被団協代表の箕牧智之氏と並んで、三人の高校生平和大使が受賞を喜びました。この三人の高校生の存在は、被爆の記憶の継承のプロセスにおける教育という側面を浮かび上がらせます。大会では基調講演者として、教育哲学の観点から災厄的な記憶の継承の問題を研究されてきた東京大学の山名淳先生をお招きし、教育における記憶の継承をめぐる困難をテーマとしてお話しいただきます。また基調講演を受け、福岡女学院大学の池田理知子先生、昭和女子大学の小西卓三先生に論点提起者としてご参加いただき、「忘却に抗うコミュニケーション」というテーマをめぐる討議するシンポジウムを開催します。

- 基調講演者：山名淳（東京大学）
- シンポジスト：池田理知子（福岡女学院大学）／小西卓三（昭和女子大学）
- モデレーター：谷島貴太（二松学舎大学）

### ○ 学術局企画セッション

タイトル：「記憶継承の実践をめぐる：原爆の絵とヒロシマアーカイブ」（仮）

本大会では学術局企画として、シンポジウムのテーマを別の角度から深めるための企画セッションを実施します。このセッションでは、被爆や戦争の記憶を継承するための実践を取り上げ、その意義や可能性について討議していきます。取り上げる次の二つのプロジェクトの一つ目は「原爆の絵プロジェクト」です。このプロジェクトは、広島平和記念資料館と広島市立基町高等学校が協力して行っている教育活動および記憶伝承活動です。本セッションにはそのプロジェクトのメンバーとして活動してきた基町高校の卒業生にも参加いただきます。加えて、基調講演者の山名淳先生の研究室の博士課程学生であり、原爆の絵プロジェクトについても研究されてきた当会会員の久島玲さんにコメンテーターとして加わっていただきます。二つ目は「ヒロシマアーカイブ」です。これは東京大学大学院情報学環の渡邊英徳教授が制作した、広島の地理情報と被爆者の証言の声を紐づけた多元的なデジタルアーカイブです。本セッションには、「ヒロシマアーカイブ」と連動した「古写真VR」／「戦災VR」を制作している小松尚平氏（東京大学大学院特任研究員）にご参加いただきます。

- 登壇者：広島市立基町高校卒業生（人選中）
- 登壇者：小松尚平（東京大学大学院特任研究員）
- 登壇者：久島玲（東京大学大学院博士後期課程）
- モデレーター：谷島貴太（二松学舎大学）



## ○ 展示企画

大会中には、シンポジウム連動セッションで取り上げられる「原爆の絵」（※広島平和資料記念館からお借りするレプリカ）および「ヒロシマアーカイブ」と連携した「古写真VR」と「戦災VR」を展示する展示企画も予定しています。実際の作品やシステムを直接ご覧いただくことで、シンポジウムや連動セッションでの議論をより深く理解するための空間にしたいと思っています。

---

基調講演およびシンポジウムは大会初日の6月7日、連動企画セッションは6月8日、展示企画は両日での開催を予定しています。「忘却に抗うコミュニケーション」という大会テーマについて、様々な角度から掘り下げることができる大会にしようと準備を進めています。また大会全体を通して、コミュニケーションについて研究することの意味を改めて捉え返すような場にしたいと考えています。

みなさまの奮ってのご参加をお待ちしています。

(副学術局長：大会担当 谷島 貫太)



## 事務局報告

### 事務局からのご報告とお願い

#### 1. 2025 年度年会費の請求について

2025 年度の年会費は 4 月に請求書を発送しておりますが、学生会員・準会員の会員の方は、7 月の申請締め切り後の請求書発送となります。

#### 2. 会費滞納による除名とジャーナル受け取りの権利について

過去 3 年間の会費がすべて未納の場合には、会則第 13 条および内規 6 に従い、特別な理由がない限り除名となります。また会則内規 5 に従い、前年度の会費が未納の場合にはジャーナルをお送りすることができませんのでご了承ください。

#### 3. 会費納入状況の確認について

会費の納入状況が不明の場合には事務局までお問い合わせください。事務局のメールアドレスは、jcom-post[@を入れる]as.bunken.co.jp です。納入状況をご確認の上、下記の郵便振替口座にお振込みいただくこともできます。なお、振込手数料は各自のご負担にてお願いいたします。

郵便振替口座番号 00160-2-603688

口座名義 日本コミュニケーション学会

(銀行口座からお振込の場合)

ゆうちょ銀行 (9900)

〇一九 (ゼロイチキュウ) 店 (019)

当座 0603688

ニホンコミュニケーションガックイ

※海外在住などで振込が困難な方はクレジットカードでの会費支払いにも対応いたします。詳しくは事務局までお問い合わせください。

#### 4. 学生会員・準会員登録申請について

学生会員 (大学院生対象)、準会員 (学部生対象) として登録するには、登録申請が毎年必要です。既会員の申請期限は 7 月末日です。申請書のフォームは学会ホームページの「会員各種

手続き」よりダウンロードし、学生証等のコピーを添付して郵送で事務局までお送りください。事務局の住所は次の通りです。

〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター  
日本コミュニケーション学会事務局

#### 5. マイページの利用について

ホームページ上の「マイページ」（会員情報管理システム）が利用できるようになっております。マイページでは「会費納入状況の確認」「会員情報の検索」「会員情報の変更・確認」などができます。マイページへのアクセスに必要な ID とパスワードは、年会費の請求書と一緒に送りしております。「お振り込みに関するご注意」の欄に〈マイページのご案内〉がありますのでご覧ください。もしこの用紙を紛失なされた場合には、日本コミュニケーション学会事務局（以下「学会事務局」とする）までお問い合わせください。

問い合わせ先： 日本コミュニケーション学会事務局  
jcom-post[@を入れる]as.bunken.co.jp

#### 6. 年次大会総会がきのオンライン化について

2024 年度から総会がきはオンライン化されております。学会専用のメーリングリストのご案内をいたしますので、学会からの各種お知らせが E メールで届いていない場合は学会事務局までご連絡をお願いいたします。

#### 7. 住所等変更届のお願い

住所や所属が変更になった場合には次のいずれかの方法で手続きをしてください。

(1) 日本コミュニケーション学会 HP にある「マイページ」にアクセスし「会員情報の変更」を選択して必要事項を更新してください。メールアドレスの更新も「会員情報の変更」内で行うことができます。

(2) 学会事務局までメール、郵送、ファックスのいずれかでご連絡ください。

#### 8. ジャーナルバックナンバー、記念図書の購入申込みと閲覧・複写申込み

これまで発行されたジャーナルバックナンバーなど学会発刊物を購入されたい場合は、学会事務局にお問い合わせください。また、科学技術情報発信・流通総合システム J-STAGE

(<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/-char/ja/>) あるいは国立情報学研究所の論文情報ナビゲータ CiNii (<http://ci.nii.ac.jp/>) や CiNii Research (<https://cir.nii.ac.jp/?lang=ja>) にも論文

が掲載されており、閲覧・印刷することができますので、こちらも是非ご利用ください。同サービスを利用せずに複写をご希望の場合は、学会事務局までお問い合わせください。

#### 9. 新規会員の手続き

JCA では新しい会員を随時受け付けています。次頁のような流れで、新規会員の手続きを行います。ご不明な点がありましたら、学会事務局までご連絡ください。皆様のご協力をお願い申し上げます。



## 広報局便り

### 1. 新刊情報提供のお願い

広報局としては、会員の皆様の新刊情報を学会公式 X[旧 Twitter](@jca\_1971)および ML で発信・配信していきたいと考えております。自薦、他薦を問わず、新刊のご著書に関する情報をお寄せいただきたく、お願い申し上げます。ぜひ、ご検討ください。

※学会ホームページに記載されている「基本方針」に合致しないものに関しては、学会公式 X 等での発信をお断りする場合がございます。ご了承下さい。

<http://jca1971.com/keynote>

### 2. 広報局からのお知らせ

- ① 広報局では ML をもちいて、学会 HP における掲載情報を中心に会員の皆様あての情報配信をおこなっております。それらが届いているかをご確認いただいたうえで、もし不達の場合には、JCA ニュースレター今号 ?? ページのご案内をご参照いただき、マイページへの登録手続き／メールアドレスの更新をお願いいたします。
- ② 広報局では各支部や各研究会の情報、他学会や教員公募などの情報も、ホームページにアップロードしていきたいと考えております。ぜひ、情報をお寄せください。アップロードする文面については、タイトルを含めて完全原稿をご準備ください。
- ③ 皆様からも、国内だけでなく、海外の学会を含めて関連する講演会や研究会があれば情報として広報局までご一報下さい。ホームページにアップロードしたいと思います。アップロードする文面については、タイトルを含めて完全原稿をご準備ください。
- ④ ホームページ (<http://jca1971.com/>) は、適宜更新しております。ご意見やご質問を頂ければ幸いです。
- ⑤ JCA 公式 X[旧 Twitter](@jca\_1971)も適宜更新しております。是非フォローをお願いいたします。

(広報局長 小西 卓三)

## JCA ニュースレターへのご寄稿のお願い

日本コミュニケーション学会では、ニュースレターへの会員の皆様のご寄稿を募集しております。以下の要領で奮ってご寄稿ください。宛先：田島慎朗 (tajima-n[@を入れる]kansai-u.ac.jp)

### ① 著書紹介

会員の皆様の著書を紹介するコーナーです。自薦、他薦を問わず、会員の皆様の著書をご紹介ください。和文・英文で1枚程度（A4）の原稿を受け付けております。

### ② コラム：コミュニケーション教育

コミュニケーション教育に関する実践報告、事例紹介、展望、論考、その他のエッセイを受け付けています。

和文・英文で1枚程度（A4）の原稿を受け付けております。

### ③ NL 表紙の写真

ニュースレターの表紙を飾る写真を募集しております。本学会のNL表紙に相応しい写真がございましたら是非お寄せください。（写真は、会員の皆様ご自身でお撮りになったもの、または著作権をお持ちの写真に限ります。また、写真内容が法令に触れないようご配慮ください。）

## 支部ニュース



## 北海道支部



(支部長 佐々木 智之)

**例**年、3月の北海道では「3学会合同研究会」を開催しています。

JACET 北海道支部・HELES(北海道英語教育学会)・JACET 北海道支部

日時：2025年3月8日(土) 13:00~17:40

会場：北海学園大学 8号館 B31 教室

JCA からは2つの発表が予定されています。

1. 第2外国語リーディング理解問題の改善について～良い多肢選択問題の作り方

竹内康二 (札幌国際大学)

概要：大学で一般的に行われているリーディング授業の評価において、教授内容を的確に反映し、公正で偏りがなく、評価される学生にも納得のいく質問を作成することは、教員の最も重要な責務の一つである。また、授業の評価活動は、教員の語学習得に関する知見を反映するとともに、その語学習得の最後の重要なステージでもある。この実践発表においては、第2外国語リーディング理解において評価すべきことは何か、適切な評価を実現するために、多肢選択問題を利用する場合に留意することは何か提言したい。

2. 「問題な日本語」を学生と共有化する小活動の報告

佐々木智之 (北海道科学大学)

概要：学生との日々のコミュニケーションの中で、「問題のある日本語」が気になることがある。教員として問題点を指摘するのは簡単だが、あえて問題な日本語について、学生と共有化することを試みた。問題のあることばの洗い出し、「何が問題か」の話し合いをしていくうちに、問

題点を「過度の略語」「誤用」「あいまいな表現」とラベル化することによって、コミュニケーション上どんな問題が起こるのかを考える機会になった。



## 東北支部



(支部長 宮曾根 美香)

**東**北支部では2024年12月14日(土)に東北支部第25回研究大会を開催しました(オンライン)。参加者は外部からのオブザーバー1名を含む8名でした。研究発表3件の後、支部総会を行いました。

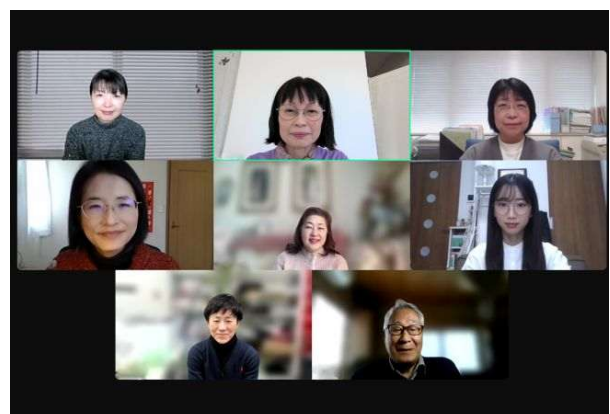
【プログラム】

研究発表1 「外国人診療に必要なコミュニケーションの言語的課題—多言語対応の診療サポートの視点から」川内規会 (青森県立保健大学)

研究発表2 「ポール・オースター『幽霊たち』におけるアイデンティティ・クライシスと孤独の表象」工藤千知 (北海道大学大学院 修士課程)

研究発表3 「大学生のキャリアウェルビーイング」宮曾根美香 (東北工業大学)

支部総会 新会員の紹介、理事会報告、2025年春の定例研究会他



今回は新会員およびオブザーバーの方の参加があり、新鮮な雰囲気でした。それぞれの専門領域からのご発表やコメント等を通し、コミュニケーションについての新たな視点を持つことができました。2025年春には定例研究会(オンライン)を開催する予定です。小さい支部ながら今年度は2名の新会員の加入があり、今後も少しずつ会員を増やしていき、コミュニケーション学の広さと深さを共有していけたらと思います。

## 関東支部

(支部長 田島 慎朗)

**関**東支部は、2024年11月16日(土)に、二松學舎大學 九段キャンパスにて「コミュニケーション学とヘイトスピーチ」と題する研究会を行いました。ご発表いただいたのは、酒井信一郎先生(立教大学)、谷島貫太先生(二松學舎大學)、Megu Itoh 先生(立教大学)、そして青沼智先生(国際基督教大学)でした。

今回オンライン配信はなく会場にお越しただく形にいたしました。20名を超える方々にお集まりいただき、盛況のうちに会を終えました。



研究会の後には、会場近くの中華料理店 上海庭 九段南店にて、希望者で食事会を行いました。会場をお貸し下さった二松學舎大學、谷島貫太先生ならびに食事会の設定にご協力いただいた松本健太郎先生には、心より御礼申し上げます。

支部では、このテーマを引き続き発展させ、議論を重ねていく予定であります。今回お越しただけなかった方々にも、次の機会にはぜひお越し下さいませ。

## 中部支部

(支部長 毛利 雅子)

2025年度中部支部例会のご案内です。

【日時】2025年3月16日(日) 午後1時から

【場所】名城大学名古屋ドーム前キャンパス

【セッション1】

コミュニケーション学を教える中からの気づき：『改訂版 グローバル社会のコミュニケーション学入門』の執筆者・編集者を迎えて  
登壇者(敬称略)：佐藤良子(内田良子)、田島慎朗、平田亜紀、福本明子、藤巻光浩、宮崎新、宮脇かおり、森泉哲、森脇尊志

【セッション2】

研究発表：松見誌野、ロハス・ロレーナ、矢島清香

多くの皆さまのご参加をお待ちしております。

## 関西支部

(支部長 日高 勝之)

**関**西支部では、2024年度関西支部大会を2024年11月23日(土)に関西大学梅田キャンパスで開催しました。昨年度より関西に赴任されました田島慎朗先生(関西大学)を講演者としてお招きし、延べ10名の会員・非会員の皆様にご参加いただき、基調講演後の長時間ディスカッション、その後の懇親会も多いに盛り上がり、大変実り多い大会となりました。



【2024年11月23日 2024年度関西支部大会】

14:30-14:50 支部総会  
 15:00-16:00 講演  
 16:10-17:10 講演内容を踏まえての  
                   質疑応答・ディスカッション  
 17:30～ 懇親会

【講演者】

田島 慎朗先生 (関西大学外国語学部教授)

【講演タイトル】 コミュニケーション研究から  
 見たアメリカ大統領選挙テレビ討論会

最初に支部総会を開催し、支部長から2023年度の事業報告および2024年度事業計画が報告され、出席の支部会員から承認を得ました。引き続き、野島晃子先生より2023年度決算報告および2024年度予算案が報告され、同様に承認を得ました。

田島先生のご講演では、選挙結果が出たばかりのアメリカ大統領選挙についてコミュニケーション研究の視点から探究するという大変タイムリーな内容でした。今回の関西支部研究会では、このタイミングで選挙の大きな焦点であった大統領候補のテレビ討論会 (Presidential debate)、特に9月に行われた第二回討論会をとりあげて、コミュニケーション学にとっての討論会の意義を振り返り、討論会から見て取れるコミュニケーション研究の展望について、過去のテレビ討論会との比較も交えながら、田島先生からは大変示唆的な議論をご提示いただきました。その後の、質疑応答でも活発な議論とやりとりが行われ、4年に1度のアメリカ大統領選挙をコミュニケーション学からアプローチするための洞察を深める貴重な機会となりました。

なお、関西支部では、春期研究会を2025年3月22日(土)に、関西大学梅田キャンパスで開催することを決定いたしました。大会テーマや詳細については、HP、NL等でご案内いたしますので、皆様是非ご参加ください。

## 九州支部

(支部長 清宮 徹)

九州支部では、2024年度の第31回九州支部大会を、11月30日(土)に、鹿児島大学において開催しました。上土井宏太先生(鹿児島大学)が実行委員長を担当し、『AI時代のコミュニケーション-コミュニケーション学は持続可能か-』という今日的なテーマのもと、大会を実施しました。

基調講演では、伊藤奈賀子先生(鹿児島大学)による「大学教育でいかに学生と、そして、生成AIと向き合うか」をテーマに、これまでのご経験をもとに有意義なお話をいただき、その後、会場の参加者と活発な議論を行いました。



研究発表では、若手研究者による4つの報告があり、前向きで活気のある議論が展開されました。これらに加え、「学生特別企画」として、川井健斗(西南学院大学)さんから、彼の修士論文をもとにした医療コミュニケーションの研究結果が報告されました。関係する別の学会で表彰を受けた研究を発展させた発表であり、一般の研究発表とともに、大学院生たちの積極的な研究発表が印象に残りました。



今大会は、前回の30周年記念大会から課題として取り上げてきた、若手研究者との対話の機会を作るという場を持ちました。「特別セッション」という形で企画し、「コミュニケーション学は持続可能か」というテーマの下、3人の支部長経験者、池田理知子先生（福岡女学院大学）、吉武正樹先生（福岡教育大学）、そして私、清宮徹による講演の後に意見交換を活発に行いました。「持続は可能である」という見識のもと、それではどのようにして可能かについて議論が展開されました。これら基調講演と特別セッションについては、後日、『九州コミュニケーション研究』において掲載される予定です。鹿児島という豊かな食文化の環境での開催であり、懇親会では、おいしい食事とともに交流を深めることができました。1日を通して大勢の参加者(対面とオンライン参加者)とともに、アットホームな形で、とても良い支部大会となりました。

九州支部活動のもう一つの大きな柱である支部紀要『九州コミュニケーション研究』第22号が発行されました。昨年(2024)の第30回支部大会の基調

講演である伊東未来先生（西南学院大学）と眞下弘子先生（西南学院大学）の講演をもとにした論考が掲載され、研究論文1件、研究発表論文1件が掲載されています。九州支部ホームページ

(<http://kyushu.jca1971.com/>)にて閲覧可能です。九州支部の「ニュースレター」は、今年は合併号での発行となりました。九州支部の運営委員の近況報告が掲載されていて、読み応えのあるニュースレターとなっています。こちらも同ホームページから、ぜひご覧ください。

来年度も、会員のみならずとの交流をより積極的に推進して参ります。

#### 連絡先

〒162-0801

東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター

日本コミュニケーション学会事務局

Tel: 03-6824-9372

Fax: 03-5227-8631

[jcom-post@\[@を入れる\]as.bunken.co.jp](mailto:jcom-post@[@を入れる]as.bunken.co.jp)

## マイページ登録のお願い

日本コミュニケーション学会 広報局

### 1. マイページの利用開始について

マイページでは「会費納入状況の確認」「会員情報の検索」「会員情報の変更・確認」などができます。新しい HP の右上のバナーからログインできますので、**できるだけ早い時期にアクセスしていただいて、記載内容の確認・登録・更新をお願いいたします。**マイページへのアクセスに必要な ID とパスワードは、年会費の請求書と一緒に送っております。「お振り込みに関するご注意」の欄に〈マイページのご案内〉がありますのでご覧ください。もしこの用紙を紛失なされた場合には、日本コミュニケーション学会事務局（以下「学会事務局」とする）までお問い合わせください。

問い合わせ先： 日本コミュニケーション学会事務局

jcom-post[@を入れる]as.bunken.co.jp

### 2. 住所等変更届のお願い

住所や所属が変更になった場合には次のいずれかの方法で手続きをしてください。

- (1) 日本コミュニケーション学会 HP にある「マイページ」にアクセスし「会員情報の変更」を選択して必要事項を更新してください。メールアドレスの更新も「会員情報の変更」内で行うことができます。
- (2) 学会事務局までメール、郵送、ファックスのいずれかでご連絡ください。

編集後記

ニュースレターが紙から PDF に変わり、このように情報をまとめる意義はどこにあるんだろう。四年間行った同じ役職を再度拝命して、たまにはこんなことを考える余裕も出来ました（もちろん no offence! 今までの広報局の先生方には大感謝です！）。情報をまとめるまでもなく、できるだけ広報したいものは HP と SNS でぱーっと広げていき、会員限定にすべきものはそうするのが適するような気も致します。ただ、あえて回顧主義的かつ手前みそでその意義を論じるなら、ニュースレターは一つの読み物としての「共有体験」を可能にすることもかもしれません。その意味で、「巻頭言」と「私にとってコミュニケーション学とは」という二つのコラム、そして支部ニュースのイベント後の報告がもつ役割はとても大きいと思います。今回もありがとうございました！そして、今後は著書紹介とコラム (p.21) が増えてほしい、、、！！

広報局 ニュースレター担当 田島 慎朗